



つなぐ、むすぶ、広げる、未来へ

*The Next Perspective*



YBHD NEWS No.25

平成23年2月

# 株主通信



株式会社 横河ブリッジホールディングス



取締役社長

吉田 明

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに株主通信「YBHD NEWS」第25号をお届けいたします。当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、企業業績等の一部改善の兆しが見られますものの、長引く円高やデフレの進行など先行きに対する不透明感を払拭できず、依然として予断を許さない状況が続いております。

建設業界におきましても、民間設備投資の抑制に伴う需要の減少や、公共事業費の縮減による受注競争の激化などにより、総じて厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループといたしましては、グループ企業間の連携を強化し、受注の拡大に注力するとともに、一層のコスト低減と生産性の向上により利益の確保を図ってまいります。

役員・従業員一同、株主の皆様のご期待に応えるよう努力してまいりますので、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年2月

平成23年1月31日に、平成23年3月期第3四半期累計期間(平成22年4月1日から平成22年12月31日まで)の決算短信を公表いたしましたので、その概況につきましてご紹介申し上げます。

連結経営成績(累計)

	平成23年3月期第3四半期	平成22年3月期第3四半期
売上高	56,539 百万円	63,671 百万円
営業利益	3,206 百万円	2,859 百万円
経常利益	3,838 百万円	3,828 百万円
四半期純利益	2,090 百万円	1,959 百万円

当社グループの当第3四半期累計期間(平成22年4月1日から平成22年12月31日まで)の総受注高は、413億6千万円(前年同期は598億9千万円)となりました。セグメント別の受注高といたしましては、橋梁事業299億円(前年同期比38.2%減)、建築環境事業99億8千万円(同0.5%減)、先端技術事業14億7千万円(同0.1%減)となりました。

決算面につきましては、当第3四半期累計期間の売上高は565億3千万円(前年同期比11.2%減)、営業利益は32億円(同12.1%増)、経常利益は38億3千万円(同0.3%増)、四半期純利益は20億9千万円(同6.7%増)となり、前年同期に比べますと減収増益となりました。セグメント別の売上高といたしましては、橋梁事業435億8千万円、建築環境事業104億1千万円、先端技術事業17億3千万円、不動産事業8億円となりました。

採算面につきましては、橋梁事業は売上高が減少し、低採算の工場の生産が増加しましたものの、固定費削減を中心にコス

トの低減に一層努めたうえ、鋼材の値上がりリスクが軽減し、大型低採算工事において損益の改善が図られたことにより、営業利益は前年同期を上回る36億4千万円(前年同期比5億5千万円増)となりました。建築環境事業につきましては、建築事業は前期末の受注残高が大幅に減少したことにより、生産が低調に推移しましたため、売上高が減少し採算も悪化しました。システム建築事業は採算的には改善に向かいましたが、事業採算の確保には至りませんでした。環境事業は生産が徐々に上向き、採算も改善されつつありますが、建築環境事業全体としての営業損益は1千万円の損失(同1億2千万円減)となり、採算の確保には至りませんでした。先端技術事業につきましては、精密機器製造事業の売上高が増加しましたものの、情報処理事業は売上高の減少により事業採算の確保ができませんでしたので、先端技術事業全体の営業利益は1億5千万円(同2千万円減)となりました。

平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日~平成23年3月31日)

	平成23年1月31日発表	平成22年7月29日発表
売上高	80,000 百万円	84,000 百万円
営業利益	2,450 百万円	2,450 百万円
経常利益	3,150 百万円	3,150 百万円
当期純利益	1,500 百万円	1,500 百万円
1株当たり当期純利益	33円 07銭	33円 01銭

平成23年3月期の連結業績予想(売上高)につきましては、平成22年7月29日に公表いたしました内容から修正しております。

## Topics

## 1

## 東環状大橋上部工工事について

### ～世界初の橋梁形式 ケーブル・イグレット構造～

株式会社横河ブリッジより、東環状大橋(第6分割)上部工工事[徳島県発注]についてご紹介いたします。

本工事は、日本三大暴れ川の一つに数えられる吉野川の河口から約2kmに位置する橋梁の建設工事です。施工地の徳島市内は、国道11号、55号、192号が市街地で交差するため、都市内交通や通過交通が周辺に集中し、慢性的な交通渋滞が発生しています。そのため、交通の分散を図る必要性から外環状道路の事業が進められており、本橋はその外環状道路の一部を成す橋梁です。完成すると橋長1,291mとなり、河川に架かる道路橋としては国内最長となります。

本橋の特徴は、上流側に架かる吉野川大橋から下流の吉野川河口域に、シオマネキ(※)等の希少種が生息する広大な干潟が存在していることから、干潟部への橋脚を設置しない長大支間を採用していることであります。

また、上部工のケーブルで吊る形式については、極力、鳥類の飛行の障害を少なくする配慮から、主塔が低くケーブル段数も少ない「ケーブル・イグレット」形式を採用しています。

この形式は世界に類がなく、ケーブルを張った外観が徳島県の県鳥でもある白鷺(イグレット)のはばたきに似ていることから、「ケーブル・イグレット」と命名されました。

そのため架設方法につきましても、トラッククレーンベント工法、台船一括架設工法、トラベラクレーンベント工法、トラベラクレーン張出工法と種々の架設工法を採用しており、高い技術力が求められる工事です。

来年春に予定されている開通に向けて、無事故・無災害で工事を進めてまいります。

※シオマネキ:三重県から沖縄県までの内湾や河口付近の泥質の干潟に生息するカニの一種。オスの片方のハサミが大きくなる。



施工中



施工中(上空より)



完成予想図(ケーブル・イグレット構造部)

## Topics

## 2

## 大阪駅改良工事について

横河工事株式会社より、大阪駅改良工事についてご紹介いたします。

本工事は、大阪駅開発プロジェクトの内、1日1,500本を超える電車が往来し、85万人の旅客が乗降する大阪駅のホーム上空に、橋上駅舎やドーム屋根等を新設し、コンコース等を改修する工事です。

当社は、大林組・大鉄工業・竹中工務店・銭高組・浅沼組・奥村組JVより、橋上駅舎、南北架構、東西架構、ドーム屋根の施工を受注いたしました。

主な工法としては、橋上駅舎は北側ヤードで組み立てた鉄骨をエンドレス滑り装置とダブルツイングジャッキを使用し、ホーム上空へ送り出す「送り出し工法」、東西架構は自社機材のジブクレーンを使用し、東西方向へ逐

次建方を進める「トラベラクレーン工法」、南北架構とドーム屋根は、送り出しされた橋上駅舎上部で組み立てた鉄骨を、ダブルツイングジャッキを使用し東西方向へ横引きする「スライド工法」にて施工しました。

本工事は、平成20年7月より平成23年2月までの32か月におよび、この間、工事は24時間体制で行われ、無事故で完了することができました。

本プロジェクトは、大阪駅北に新設された大阪駅新北ビル(正式名称:ノースゲートビルディング)と併行して進められ、新しい大阪の玄関口として、平成23年春にグランドオープンを迎えます。



東西・南北架構施工中(平成21年夏)

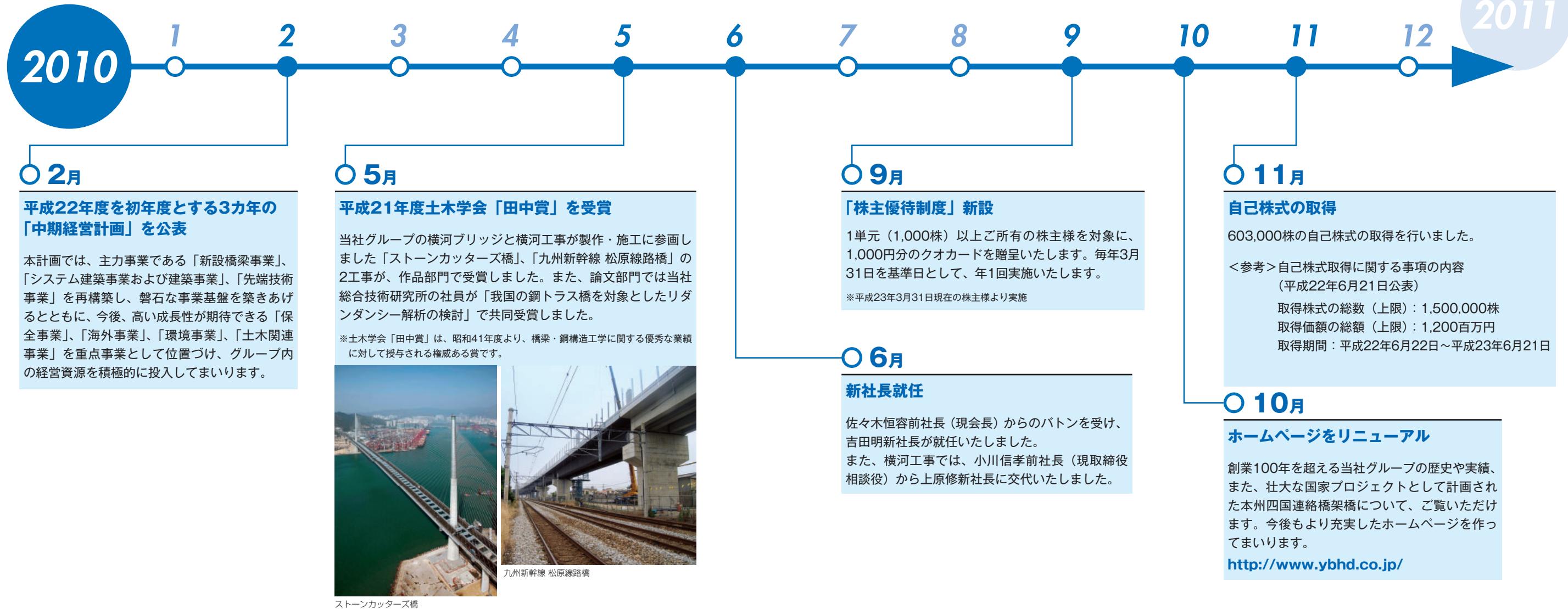


大阪駅全景(平成22年2月)



大阪駅全景(平成22年10月)

昨年1年間の主な出来事を振り返りました。



○ 2月

**平成22年度を初年度とする3カ年の「中期経営計画」を公表**

本計画では、主力事業である「新設橋梁事業」、「システム建築事業および建築事業」、「先端技術事業」を再構築し、磐石な事業基盤を築きあげるとともに、今後、高い成長性が期待できる「保全事業」、「海外事業」、「環境事業」、「土木関連事業」を重点事業として位置づけ、グループ内の経営資源を積極的に投入してまいります。

○ 5月

**平成21年度土木学会「田中賞」を受賞**

当社グループの横河ブリッジと横河工事が製作・施工に参画しました「ストーンカッターズ橋」、「九州新幹線 松原線路橋」の2工事が、作品部門で受賞しました。また、論文部門では当社総合技術研究所の社員が「我国の鋼トラス橋を対象としたリダクション解析の検討」で共同受賞しました。

※土木学会「田中賞」は、昭和41年度より、橋梁・鋼構造工学に関する優秀な業績に対して授与される権威ある賞です。



ストーンカッターズ橋



九州新幹線 松原線路橋

○ 9月

**「株主優待制度」新設**

1単元（1,000株）以上ご所有の株主様を対象に、1,000円分のクオカードを贈呈いたします。毎年3月31日を基準日として、年1回実施いたします。

※平成23年3月31日現在の株主様より実施

○ 6月

**新社長就任**

佐々木恒容前社長（現会長）からのバトンを受け、吉田明新社長が就任いたしました。また、横河工事では、小川信孝前社長（現取締役相談役）から上原修新社長に交代いたしました。

○ 11月

**自己株式の取得**

603,000株の自己株式の取得を行いました。

<参考>自己株式取得に関する事項の内容  
(平成22年6月21日公表)

取得株式の総数（上限）：1,500,000株

取得価額の総額（上限）：1,200百万円

取得期間：平成22年6月22日～平成23年6月21日

○ 10月

**ホームページをリニューアル**

創業100年を超える当社グループの歴史や実績、また、壮大な国家プロジェクトとして計画された本州四国連絡橋架橋について、ご覧いただけます。今後もより充実したホームページを作ってまいります。

<http://www.ybhd.co.jp/>

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 〒105-8574 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120(78)2031(フリーダイヤル)
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	<a href="http://www.ybhd.co.jp/">http://www.ybhd.co.jp/</a>

※表紙の写真は、東環状大橋



株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL. 03-3453-4111 (代表) <http://www.ybhd.co.jp/>

